

東京都現代美術館

# 翻訳できないわたしの言葉

2024年4月18日（木）— 7月7日（日）

翻訳できない  
わたしの言葉  
WHERE  
MY  
WORDS  
BELONG

## 言葉や思いをそのまま受けとることから

東京都現代美術館では、日本における多様な言語のあり方や、話すという行為そのものとその権利について触れつつ、「ことば」について考えるグループ展「翻訳できないわたしの言葉」を開催いたします。

世界には様々な言語があり、一つの言語の中にも、方言や世代・経験による語彙・文法の違いなど、無数の豊かなバリエーションがあります。話す相手や場に応じて、仲間同士や家族だけで通じる言葉を使ったり、他言語を使ったりと、複数の言葉を使い分ける人もいるでしょう。言葉にしなくても伝わる思いもあります。それらはすべて、個人の中にこれまで蓄積されてきた経験の総体から生まれる「わたしの言葉」です。他言語を学ぶことでその言語を生み出した人々の文化や歴史に触れるように、誰かのことを知ることは、その人の「わたしの言葉」を、別の言葉に置き換えることなくそのまま受けとろうとすることから始まるのではないのでしょうか。

この展覧会では、**ユニ・ホン・シャープ、マユンキキ、南雲麻衣、新井英夫、金仁淑**の5人のアーティストの作品を紹介します。彼らの作品は、みんなが同じ言語を話しているようにみえる社会に、異なる言語があることや、同じ言語の中にある違いに、解像度をあげ目を凝らそうとするものです。第一言語ではない言葉の発音がうまくできない様子を表現した作品や、最初に習得した言語の他に本来なら得られたかもしれない言語がある状況について語る作品、言葉が通じない相手の目をじっと見つめる作品、そして小さい声を聞き逃さないように耳を澄ませる体験などを通して、この展覧会では、鑑賞者一人ひとりが自分とは異なる誰かの「わたしの言葉」、そして自分自身の「わたしの言葉」を大切に思う機会を提示したいと思います。

## 展覧会のみどころ

### 1 映像作品を見ること（視覚）と、自分の身体性を振り返ること（身体感覚）

本展は言葉をテーマにしているため、会話の様子を描いた映像作品が数多く展示されます。映像作品をただ視覚でとらえるだけではなく、映像の中の人物と目線を合わせて座ったり、移動したり、時にはアーティストのことばに従ったワークを体験することで、身体感覚を研ぎ澄ませて、相手の話に耳を傾ける展示構成となっています。

### 2 アーティストに会えるかも？

会期中、アーティストトークなどの関連プログラムとは別に、アーティスト本人が展示室で過ごす機会も設ける予定です。アーティストと言葉を交わすこと自体が、作品体験となります。

## 展示内容と参加作家プロフィール

### ユニ・ホン・シャープ | Yuni Hong Charpe

ユニ・ホン・シャープは「Je crée une œuvre (私は作品を作る)」というフランス語の発音を、フランス語を第一言語としている長女に訂正してもらった様子を描いた映像作品《RÉPÈTE | リピート》(2019年)を展示します。母語として育った言語以外の音を正確に捉えて発音するのは難しく、外国語学習や共通語のアクセントに苦労したことのある人は多いのではないのでしょうか。アーティストは最後に「正しい」発音で「Je crée une œuvre」を言うことができるようになります。しかし「正しい」発音でなくても、それはアーティストが「わたしの言葉」として使っている言葉なのです。

アーティスト／東京都生まれ。2005年に渡仏、2015年にパリ＝セルジー国立高等芸術学院を卒業。現在はフランスと日本の2拠点で活動。アーカイブや個人的な記憶から出発し、構築されたアイデンティティの不安定さと多重性、記憶の持続をめぐり、新しい語り方を探りながら、身体／言語／声／振付を通じてその具現化を試みる。



1. ユニ・ホン・シャープ《RÉPÈTE | リピート》  
2019年



2. ユニ・ホン・シャープ《Still on our tongues》  
2022年

### マユンキキ | Mayunkiki

日本列島北部周辺の先住民族アイヌであるマユンキキは、アイヌという存在自体の否定、ステレオタイプや理想の押し付けに直面しています。民族全体を代表していると捉えられたり、アイヌらしさを期待されたりすることも認識しながら、個人として言葉を紡ぎ、自分を作り上げてきたもの・人々・言葉を丁寧に提示する試みを続けています。本展では、本来第一言語になりえたかもしれない言葉を改めて学ぶことについて、写真家の金サジと対話する映像、その対となるものとして自分が話す言葉を自ら選択することの意義について、アートトランスレーターの田村かのこと対話する映像とあわせ、セーフスペースとしての空間の中に、マユンキキを作り上げてきた様々な要素を展示します。

アーティスト／北海道生まれ。現代におけるアイヌの存在を個人の観点から探求し、映像やインスタレーション、パフォーマンスなどによって表現している。アイヌの伝統歌を歌う「マレウレウ」「アペトゥンペ」のメンバーであり、2021年からはソロ活動も開始。国内外のアートフェスティバルにパフォーマンスや展示で参加多数。



3. マユンキキ《Siknure – Let me live》2022年、  
Ikon ギャラリー(バーミンガム)での展示風景  
Photographer Stuart Whipps, courtesy of Ikon Gallery.



4. マユンキキ Photo by Hiroshi Ikeda

## 南雲麻衣 | Mai Nagumo

南雲麻衣は3歳半で失聴し7歳で人工内耳適応手術を受け、音声日本語を母語として育ちました。大学生になって手話(視覚言語)と出会い、今は日本手話を第一言語とするろう者としてのアイデンティティを獲得しています。「複数の言語を持つと、本当に帰属しているのはどちらなのかを常に問われていると感じる。」と南雲はいいます。音声言語と視覚言語を二項対立として考えるのではなく、そのあわいで揺れながら選択をし続けることは、単一言語主義へのささやかな抵抗の実践なのです。本展では、彼女の言語獲得や言葉との付き合い方を描く映像インスタレーション《母語の外で旅をする》(仮)(撮影・編集：今井ミカ)を展示します。

ダンサー、パフォーマー／神奈川県生まれ。幼少時からモダンダンスを学び、現在は手話を活かしたパフォーマンスや演劇など、身体表現全般に活動を広げる。カンパニーデラシネラ「鑑賞者」出演(2013年)、百瀬文《Social Dance》出演(2019年)など。音声言語と視覚言語を用いた複数言語の「ゆらぎ」をテーマにし、当事者自身が持つ身体感覚を「媒介」に、各分野のアーティストとともに作品を生み出している。また、言葉を越えた感覚を共有し合うワークショップも行っている。



5. 南雲麻衣 Photo: 齋藤陽道



6. 南雲麻衣 Photo: k. kawamura

## 新井英夫 | Hideo ARAI

新井英夫は、障害のある人や高齢者など、思い通りに言葉を表出しにくい／身体が動かしにくい人たちと向き合い、内なる「からだの声」に耳を澄まし尊重しあう身体表現ワークショップで高い評価を受けています。コミュニケーションには、発信する力だけではなく、聴く力も重要です。誰かの「わたしの言葉」を聞き逃さないように、言葉になる前の「からだの声」に気づくように、今回は展示室内で微かな音を奏で耳を傾けたり、身体の些細な動きを意識したりというワークを、鑑賞者に提示します。現在、全身の筋肉が徐々に動かなくなる難病と対峙している新井の日記的即興ダンス映像も、身体と言葉のつながりについて考えるきっかけとなるでしょう。

体奏家、ダンスアーティスト／埼玉県生まれ。野外劇や大道芸ダンス公演などを行う身体表現グループ「電気曲馬団」を主宰し活動する傍ら、自然に沿い力を抜く身体メソッド「野口体操」に出会い、野口三千三氏から学ぶ。その後ソロ活動に転じ国内外でダンスパフォーマンスをしながら、日本各地の小中学校・公共ホール・福祉施設等でワークショップを展開。2022年夏にALS(筋萎縮性側索硬化症)の確定診断を受けた後も、ケアする／される関係を超越した活動を精力的に継続している。



7. 新井英夫 親子WSで輪になって  
即興ダンスセッション!! ©水都大阪 2009



8. 新井英夫《踊ルココロミ Improvisation Dance with ALS》  
2022年- 撮影：イタサカキヨコ



## 金仁淑 | KIM Insook

金仁淑は、滋賀県にあるブラジル人学校サンタナ学園との出逢いを学校の日常を背景に1人1人と見つめ合うことで表現した10ch映像インスタレーション《Eye to Eye》(2023年恵比寿映像祭コミッション・プロジェクト特別賞受賞)に加え、その後の出逢いを収めた新作を展示します。日本語を使わない在留外国人は独自のコミュニティを持っており、日本語を使う前提で暮らす地域社会と接する機会は多くはありません。しかし言葉は違って、出逢うことができれば仲良くなれたり見つめあえたりします。アーティストが丁寧にコミュニケーションを積み重ねて制作したこの作品は、まさに彼ら一人ひとりに出逢うためのプラットフォームなのです。

アーティスト/大阪府生まれ。韓国への留学を機にソウルに15年間居住後、現在ソウルと東京を拠点に制作活動を展開。「多様であることは普遍である」という考えを根幹に置き、「個」の日常や記憶、歴史、伝統、コミュニティ、家族などをテーマにコミュニケーションを基盤としたプロジェクトを行い、写真、映像を主なメディアとして使用したインスタレーションを発表している。



9.



10.

金仁淑《Eye to Eye》2023年 恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト ©KIM Insook

## 関連プログラム

参加作家によるアーティストトークやパフォーマンスなど多彩なプログラムを行います。

## 展覧会概要

|        |   |
|--------|---|
| 展覧会名   | 翻訳できないわたしの言葉  |
| 会期     | 2024年4月18日(木)～7月7日(日) *当初の予定から会期を変更しています  |
| 休館日    | 月曜日(4月29日、5月6日は開館)、4月30日、5月7日   |
| 開館時間   | 10:00-18:00(展示室入場は閉館の30分前まで)  |
| 観覧料    | 一般1,400円/大学生・専門学校生・65歳以上1,000円/中高生600円/小学生以下無料  |
| 会場     | 東京都現代美術館 企画展示室 1F   |
| 主催     | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館  |
| 企画     | 事業企画課 企画係 八巻 香澄   |
| 問合せ    | 050-5541-8600 (ハローダイヤル)   |
| 展覧会ページ | <a href="https://mot-art-museum.jp/exhibitions/mywords/">https://mot-art-museum.jp/exhibitions/mywords/</a> |

## 同時期開催展

「ホー・ツーニエン エージェントのA」(4/6～7/7)

「サエボーグ『I WAS MADE FOR LOVING YOU』/津田道子『Life is Delaying 人生はちょっと遅れてくる』

Tokyo Contemporary Art Award 2022-2024 受賞記念展」(3/30～7/7)

「MOT コレクション」(4/6～7/7)

お問い合わせ：東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班 工藤・稲葉・内堀  
TEL：03-5245-1134 (直通) / FAX：03-5245-1141  
E-MAIL：mot-pr@mot-art.jp URL：https://www.mot-art-museum.jp

※開催内容は、都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。

## 広報用図版

広報用図版として 10 点をご用意しております。お貸出しをご希望の方は、下記の貸出条件をご確認の上、必要事項とあわせて図版番号をメール ([mot-pr@mot-art.jp](mailto:mot-pr@mot-art.jp)) にてご連絡ください。

### 必要事項

御社名／ご担当者名／貴媒体名（ジャンル）／発売・放送予定日

### 貸出条件

- 画像には作品情報（作家名・作品名・制作年・所蔵・コピーライト）を併記してください。
- 画像のトリミング、文字載せ、編集その他の改変はご遠慮ください。
- 画像の利用は、展覧会の広報又は紹介を目的とする新聞・雑誌その他のメディア（デジタルメディアを含む）の記事内のご使用に限ります。
- 記事の掲載前に校正原稿をお送りください。また、記事の掲載後には掲載誌（紙）、ウェブサイトの URL、DVD、CD 等をお送りください。
- お貸出しした画像データの二次使用はお断りしております。使用後はかならずデータを削除してください。

### 広報図版 作品クレジット一覧

1. ユニ・ホン・シャープ 《RÉPÈTE | リピート》2019 年
2. ユニ・ホン・シャープ 《Still on our tongues》2022 年
3. マユンキキ 《Siknure – Let me live》2022 年、Ikon ギャラリー(バーミンガム)での展示風景  
Photographer Stuart Whipps, courtesy of Ikon Gallery.
4. マユンキキ Photo by Hiroshi Ikeda
5. 南雲麻衣 Photo: 齋藤陽道
6. 南雲麻衣 Photo: k.kawamura
7. 新井英夫 親子 WS で輪になって即興ダンスセッション!! ©水都大阪 2009
8. 新井英夫 《踊ルココロミ Improvisation Dance with ALS》2022 年- 撮影：イタサカキヨコ
9. 金仁淑 《Eye to Eye》2023 年 恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト ©KIM Insook
10. 金仁淑 《Eye to Eye》2023 年 恵比寿映像祭 2023 コミッション・プロジェクト ©KIM Insook